

パークセンター実施設計の検討状況について

目 次

□第3回運営会議での課題・検討事項及び今回の整理	P. A・B
□検討事項と今回の整理—1—	P. 1
□検討事項と今回の整理—2—	P. 2
□外観スケッチ比較	P. 3
□草屋根のイメージおよび越屋根イメージ	P. 4
□パークセンター屋外計画	P. 5
□パークセンター屋外整備計画	P. 6
■参考資料	
□軒柱の有無の検討	P. 7
□太陽光発電システムの比較検討	P. 8
□着脱式稼働展示パネルの検討および新ストーブイメージ	P. 9
□パークセンター外部仕上表 (案)	P. 10・11
□パークセンター内部仕上表 (案)	P. 12・13

□第3回運営会議での課題・検討事項及び今回の整理

運営会議での検討・提案事項	運営会議での指摘	今回の整理	備	考	参考頁
1 パークセンターの柱の有無について	<ul style="list-style-type: none"> ・無柱空間である必要はないが、利用上の支障のないように配慮された柱配置とすること ・屋根荷重に配慮した構造とすること 	<ul style="list-style-type: none"> ・在来工法・府産材で経済性も配慮し、合わせ柱として最低限の柱で計画 ・梁や柱を展示パネル支持構造として利用できる形態として計画 ・入口部は軒柱を設置するが、四列柱形状は重くなるため、景観・構造・利用のしやすさを考え、庇の出幅と軒柱の有無を検討する。 	スケッチ参照		1・9
2 軒柱について	<ul style="list-style-type: none"> ・軒の出が大きいため軒柱があるほうが構造上無理がなく景観上も落ち着くのではないかと 		軒柱の柱位置は軒受けの桁位置となる。 スケッチ参照		3
3 屋根について	<ul style="list-style-type: none"> ・草屋根は雨や散水による土壌の流亡に対処する必要がある ・雨水および屋上の植物や昆虫等が屋内に侵入しない配慮しておく必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・越屋根・軒屋根素材を前回は鋼板葺きで提案したが、農家風設えを目指し、越屋根・軒屋根素材は瓦葺に提案変更 ・土壌の流亡は横棧形式の屋上緑化基盤施設で土壌流亡を防止する ・網・ガラリ等で虫の侵入や雨水の入り込みを防ぐ 	軒屋根は、重量や屋根素材の収まり・経済性を考慮すれば鋼板屋根が優れる、農家イメージ演出には瓦のほうが優れる		2・3
4 草屋根の草丈について	<ul style="list-style-type: none"> ・草屋根の草丈のイメージを持っておく必要があるのでは 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例写真により草丈10～20 cm程度をイメージする(茅葺屋根のふっくら感を標準) 	イメージ写真参照 具体的には実際の管理の中で設定		4
5 床素材について	<ul style="list-style-type: none"> ・パークセンターの床は板張は土足では痛みやすいのではないかと ・研修棟の床は様々な利用が想定されるため板張では難しいのではないかと 	<ul style="list-style-type: none"> ・パークセンター・研修棟共、土足利用に耐える床仕上げ、農家で一般的に見られる仕上げである叩き風モルタル系仕上げ(目地有り)とする ・前回提案の濡れ縁は、土間となるため取りやめ ・軒下に床机を設置 	室内・屋外仕上がりは仕上げ表(案)参照		12・13

運営会議での検討・提案事項	運営会議での指摘	今回の整理	備考	参考頁																			
6	エコモデルとしてのアピールについて	<ul style="list-style-type: none"> ・エコモデルの一部として新もしくはパレットストーブ等の導入を検討する ・ソーラーパネル) ・熱効率および景観性能に留意する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消・安全性確保の観点から、ガラスファイブの新ストーブを配置（煙突は目立たない位置に設置） ・ストーブ位置は人が集まりやすいホール中央 ・基本設計では研修棟南側に屋根一体型のソーラーパネルが提案されている ・研修棟・倉庫屋根をすべてソーラーパネルとしても必要電力はまかなえないため、電力の一部をまかなうアピール設備として計画 ・研修棟および車庫南面屋根に、発電効率の良い据え置き型ソーラーパネルを計画 据置型出力 : 13.0kw 屋根一体型出力 : 5.5kw ・パネルの色は、景観的見地から黒色パネルとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーブン型ストーブは安全性に問題がある ・燃料は公園内で発生した伐採木の使用を考える ・価格・取替え頻度の問題から蓄電池システムは不採用 ・ソーラーパネル比較（研修等・倉庫南面設置として） <table border="1"> <tr> <td colspan="2">必要電力</td> </tr> <tr> <td>単相</td> <td>17kVA</td> </tr> <tr> <td>ビクター</td> <td>11.1</td> </tr> <tr> <td>研修等</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td>車庫</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>三相</td> <td>17kva</td> </tr> <tr> <td>ビクター</td> <td>13.0</td> </tr> <tr> <td>研修等</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>34kva</td> </tr> </table> <p>LED照明を採用した場合の電灯負荷 5.5kVA</p>	必要電力		単相	17kVA	ビクター	11.1	研修等	4.4	車庫	1.5	三相	17kva	ビクター	13.0	研修等	4.0	計	34kva	9
必要電力																							
単相	17kVA																						
ビクター	11.1																						
研修等	4.4																						
車庫	1.5																						
三相	17kva																						
ビクター	13.0																						
研修等	4.0																						
計	34kva																						
7																							
8	(雨水利用)	<ul style="list-style-type: none"> 用途 : 場内散水に使用 雨水を集水（屋根）し、場内散水に利用 貯留量 : 小規模 位置 : 研修棟堅樋下周辺 <p>※（草屋根散水） 比較的多くの雨が夏場に必要のため上水利用を基本とする。 屋根散水方法：ノズル散水（土の侵食が無く、比較的ムラ無く散水できる） 他方式 スプリンクラー : 景観面で課題、飛散損失量が多い ドリッピングチューブ : 地上配管は草刈管理による損傷が課題 地下配管は根の侵入によるつまりが課題</p>	<p>子供達の学習施設として配置し、植栽の水やり等に利用する。</p> <p>日散水量 0.003~0.005m³×450m²≒1.8m³ 1.8×5回≒9.0m³（5回分の容量）</p>	7																			
9	・設備施設について	・機械室が必要ではないか	エアコンの室外機程度であり、遮蔽施設で景観的対応 屋内設置が必要な設備機器は小屋裏のメンテナンススペース利用 梁を利用した可動式のパネル提案	2																			
10	展示の具体的手法について		イメージ図参照	9																			
11	屋外空間計画について		デッキ舗装（板張舗装） 板石舗装（建物南庭通路部） 丹波石乱張舗装（入口南） 砂利舗装（建物周囲） 土系舗装（池側通路部等）	5・6																			

検討事項と今回の整理 1



1. パークセンターの柱 [スケッチ参照]

- ・ 農家風の設営を目指し、在来工法とし、利用上支障の無い柱は位置を設定
- ・ 府内産材を使用するため、合せ柱形式を採用

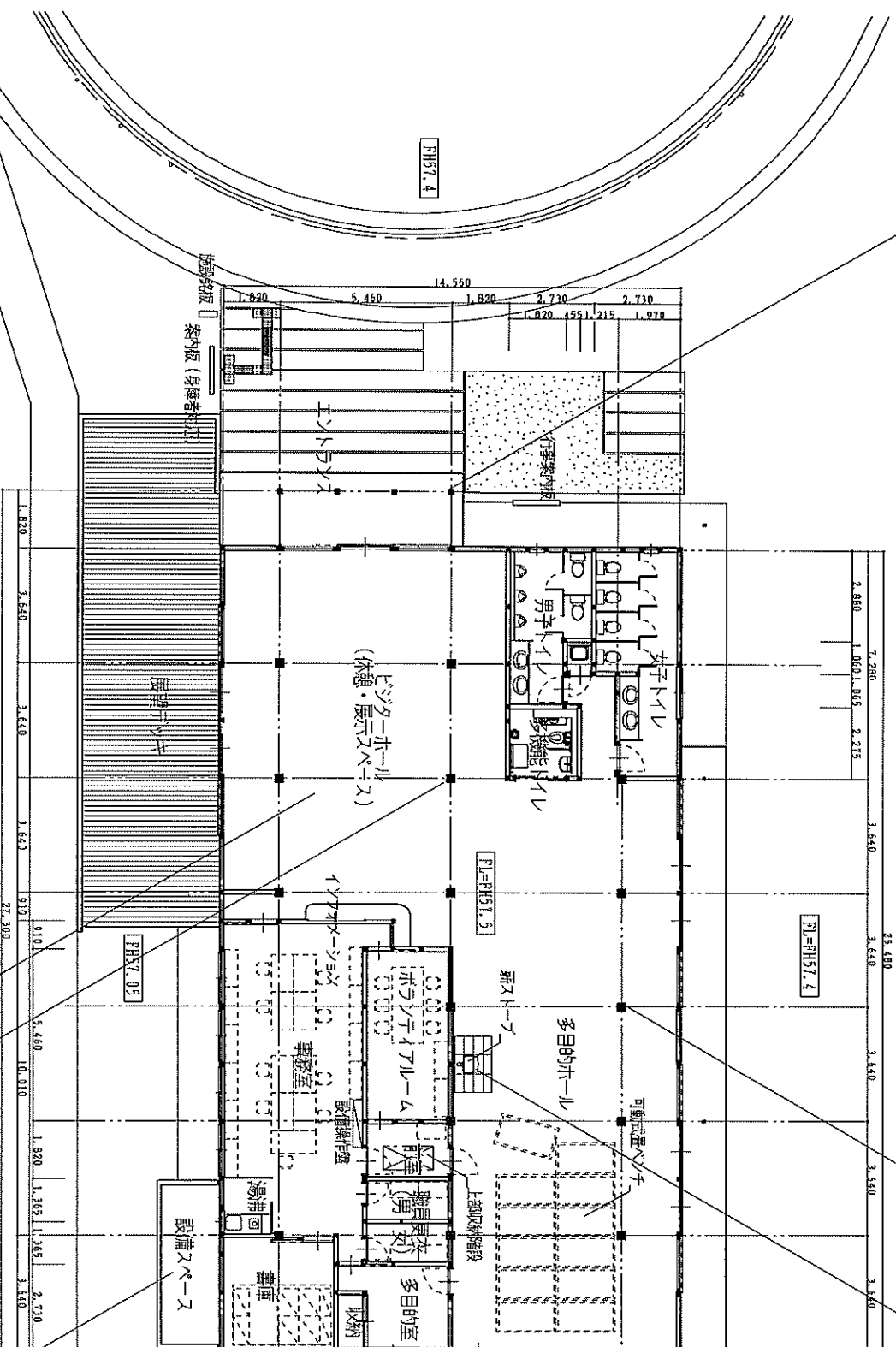
2. 軒柱

- ・ 軒の出幅を、夏の日差し緩和と景観的安定性を両立させるため1.5皿に設定
- ・ パークセンターエントランスと南面に景観的・バランス的配慮から軒柱設置

6. ストローゾ (薪)

- ・ 冬の暖房補助、コミュニティー誘発、公園発生材の活用の観点から設置
- ・ 安全性、管理面の観点からガラスフェースの新ストローゾを設置
- ・ 地産地消の観点から公園発生材を薪燃料として使用
- ・ 煙突は景観に配慮し目立ちにくい越屋根南西側部に設置

8. 雨水利用 [屋根伏図参照]



9. 屋外設備スペースおよび設備機器選定

- ・ 本計画の主設備は空調室外機であるため、換気性能維持のため屋外設置
- ・ 配管効率の観点から各棟分離設置、景観配慮のためスリット格子により遮蔽
- ・ 照明器具はLED主体、設備機器類は省エネタイプを選定

5. 床素材・床レベル

- ・ 土足利用対応のため一般利用部は土間をイメージしたモルタル系仕上げ
- ・ トイレ・シャワー室はタイル、事務室等はOAフロア、タイルカーペット仕上げ
- ・ デッキは府内産のヒノキ角材仕上げ（水はけに配慮すれば25年程度の耐久性）

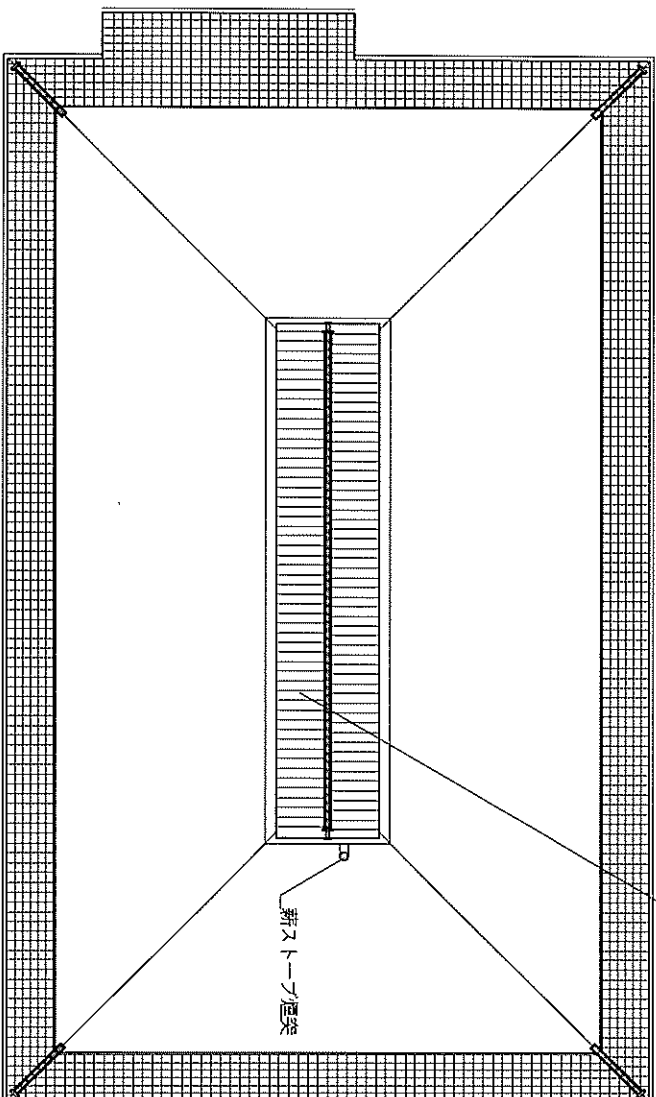
10. 展示システム (スケッチ参照)

- ・ 建築構造特性 (柱・梁) を活用し、多様な展示に対応する展示システム
- ・ 梁吊下げ型でA0版対応の可動式パネル (合板+コルクシート)

■ 検討事項と今回の整理 2

3. 屋根

- ・屋根勾配は3.5寸勾配とし、地域性景観を指し越屋根、軒先屋根は黒色系の和瓦葺き
- ・越屋根部は網、ガリリで草や虫の侵入防止、越屋根取合い部分は鋼板葺き
- ・草屋根の土壌流失防止のため、横様形式の屋上緑化基盤
- ・瓦葺き、鋼板葺きの色とソーラーパネルの色を揃え、景観的違和感の無い配慮



8. 雨水活用

- ・屋根の雨水を集水し散水等に活用
- ・貯留槽は地上設置でコストを抑え、可視化して子ども達の環境学習にもつなげる

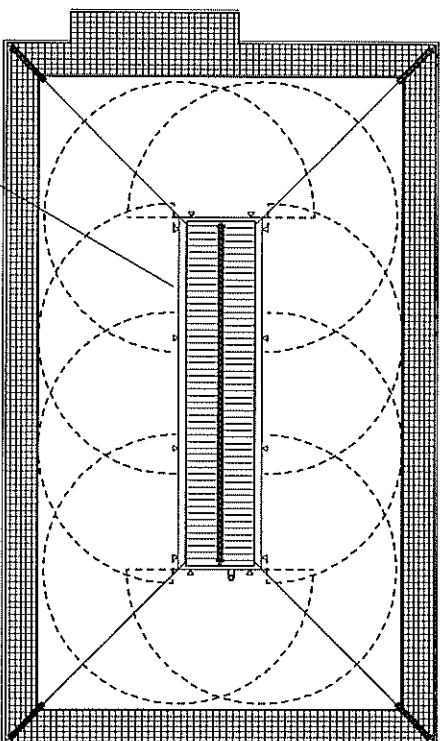


据置き設置のソーラーパネル

[P社製の例]
 パネル一枚あたりの公称最大出力215W
 パネル(1580×912)60枚設置
 メーカー公称出力から算定した発電量12.9kWh

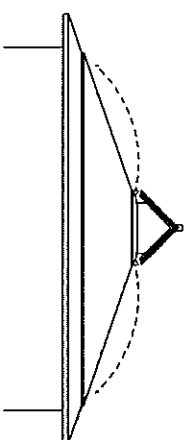
6. 太陽光発電ソーラーパネル【比較検討表参照】

- ・日常のピークセクターの単相電力負荷(電灯・コンセント)をまかなえるソーラーパネルを設置
- ・発電効率を優先し、据置き型パネルを研修棟、車庫棟の南面屋根に設置
- ・景観性を考慮し、黒色単結晶系ソーラーパネルを採用



3. 屋根【草屋根の管理】

- ・草屋根の灌水はループ配管のノズル式自動灌水システムを採用
- ・景観性を考慮し、散水配管は越屋根の周囲に目立たない様に設置
- ・草刈りなど管理作業時の安全性確保のため命綱取付用吊環設置



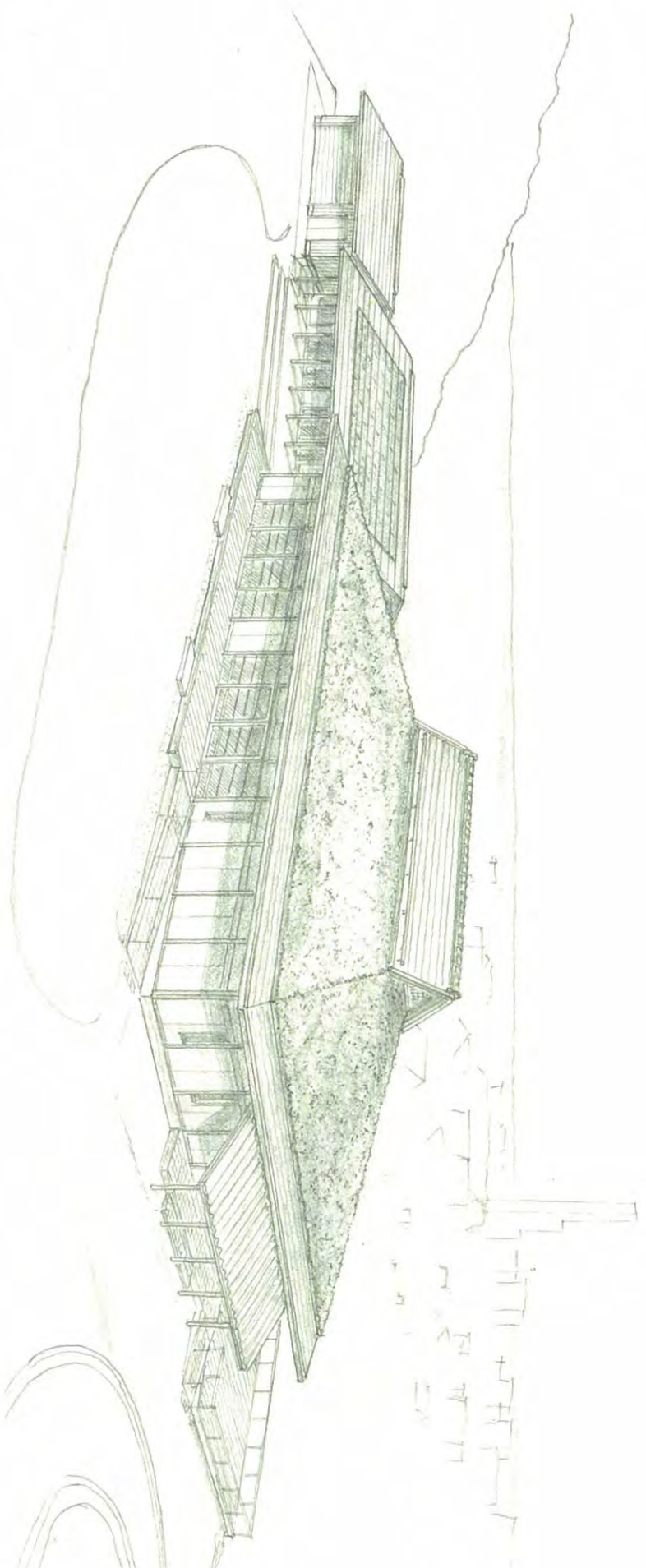
ループ配管の散水ノズルによる灌水の概念図

屋根葺き材一体型のソーラーパネル

[G社製の例]
 パネル一枚あたりの公称最大出力33W
 パネル(2000×2371)163枚設置
 メーカー公称出力から算定した発電量5.7kWh

- ・ソーラーパネルは景観的配慮から黒色パネルを採用します。黒色単結晶系のパネルはモジュール変換効率が高く、効率良い発電量を見込めます。
- ・蓄電池を備える事が理想ですが、太陽光蓄電システムが開発途上段階で、現時点では高コストであることから原則的に採用をしません。

■ 外観スケッチ 比較



第3回委員会提出外観イメージ

建築外観(スケッチ参照)

- ・景観イメージ
 - 泉南の伝統的農家景観 地域性素材の多用による自然と調和した景観
 - 地域性素材の多用による自然と調和した景観

研修棟・車庫棟屋根は銀黒系金属屋根＋黒色ソーラーパネル(南面に設置)

薪ストーブ煙突は目立たないパークセンター西側に設置

越屋根取合い部は銀黒系鋼板で草屋根保護、散水用ノズル配管設置

パークセンター屋根は草葺き＋黒いぶし和瓦

草屋根は茅葺き民家の雰囲気を目指し、草丈は10～20cmに設定

軒柱をパークセンターエントランスと南側および研修棟南側に設置

■ 草屋根のイメージ[草長さイメージ写真] および 越屋根イメージ

A-1



A. 竣工当初の草屋根イメージ

A-2



・草屋根の施工は、人工軽量土壌に芝張り仕上げ
・竣工当初は刈り込まれた芝生のイメージ

B-1



B. 目標とする草屋根のイメージ

B-2



・草屋根の草丈は、ふくよかな茅葺きのイメージを目指す。(10~20cm)
・一定期間の試行を経て剪定頻度と草丈のバランスを設定

C-1



C-2



C. 野草が混入した草屋根のイメージ

他の種子の混入は基本的に許容
地域性景観にそぐわない品種、飛びぬけて高く伸びる
品種は抜根等の処理

屋根上管理作業中の安全確保
命綱取付用吊環設置

夏冬衣替えできる小屋裏の換気口 夏場は開いて熱気を放出、冬場は閉じて断熱
防雨ガラリ+防虫網取付

草屋根と越屋根の取合い部は鋼板仕上げとし、草の根の進入や雨だれによる客土の流亡防止

越屋根壁は外壁の仕上げに準ずる

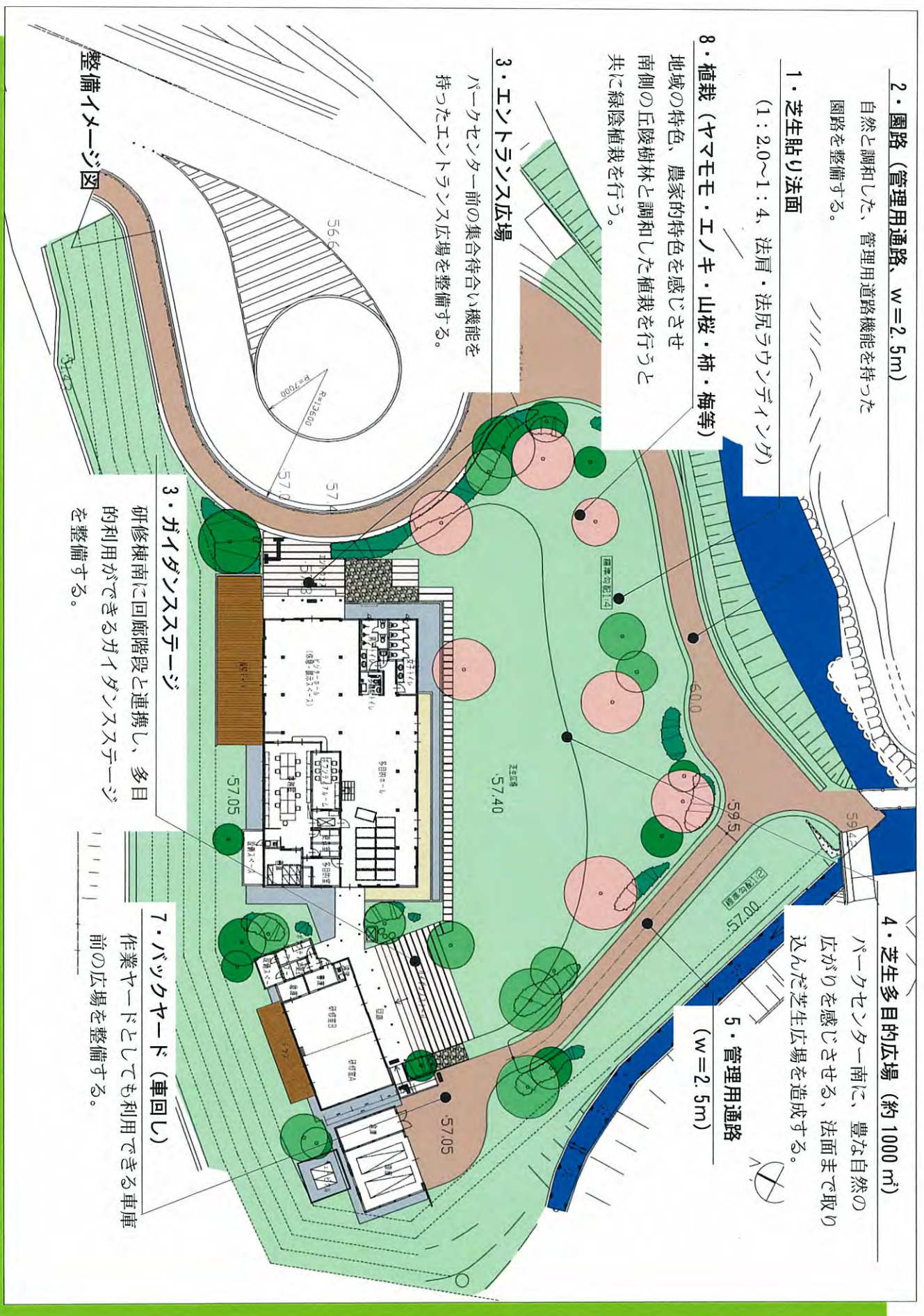
草屋根ノズル散水配管(4周ルーフ・ノズル12カ所)

側面に点検口を設置、格子状面戸を付け景観に配慮

■パークセンター屋外計画

□コンセプト

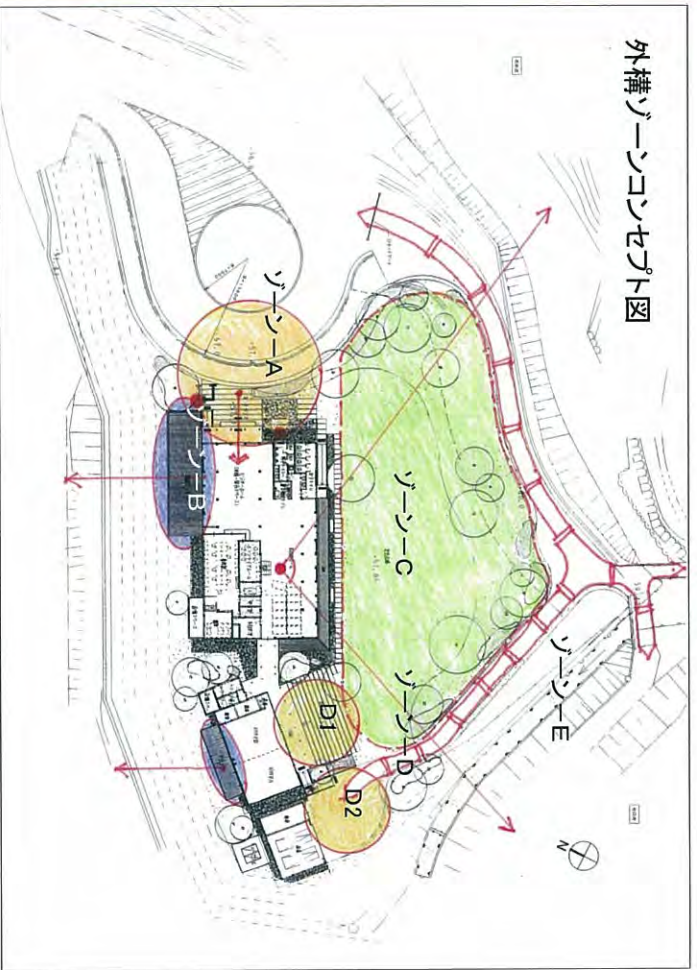
- 農家風ビクターセンターや背景の既存樹林と一体化した地域性景观「展望の良い小高い丘の上建つ農家のイメージ」を整備する。
- ビクターセンターや研修棟と連携し、臨空タワー眺望、や休息・団欒をはじめとする様々な活動が出来る環境を整備する。
- 土木の景観を最小化し、「やさらぎ・いやし」を感じさせるあたたかい雰囲気を演出する。



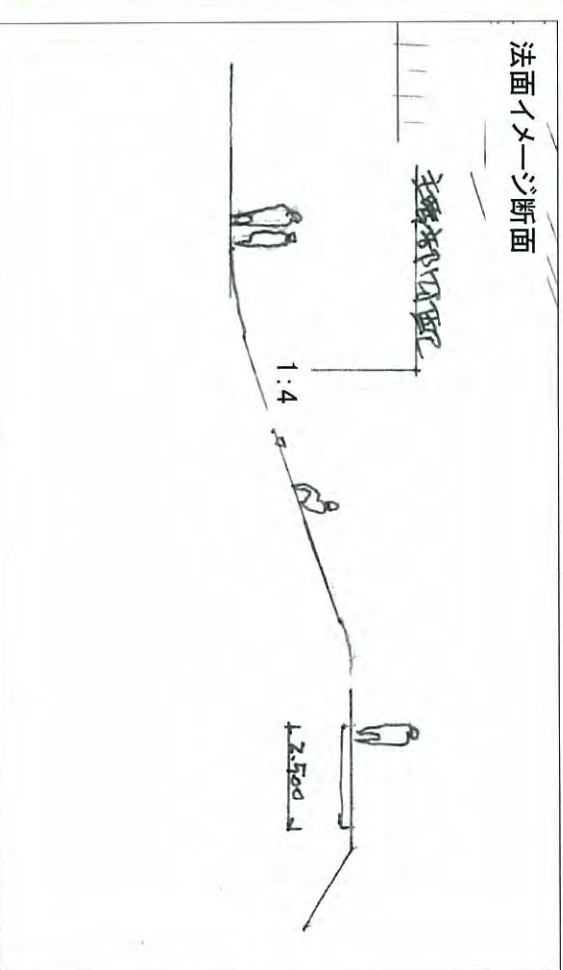
□パークセンター屋外ゾーンコンセプト

- ゾーン-A・・・東側は、ロータリーと連携したエントランス広場
- ゾーン-B・・・北側は、室内から繋がった展望休息テラス
- ゾーン-C・・・南側、東から中央部一帯
休息・団欒を中心とした多目的広場
- ゾーン-D・・・南側、西端部付近
D1：研修棟と連携したレクチャー・作業スペース
D2：車庫前は車寄せ・荷捌き・作業スペース
- ゾーン-E・・・南端部は、車輛アプローチ・連絡園路

外構ゾーンコンセプト図



法面イメージ断面



■パークセンター屋外整備計画

・造成計画

- 建築際からごくゆるい勾配で南側に上げて行き、芝生広場と土手のエッジが一体化し、背景の樹林に然に繋がるような法尻・法肩部にラウンディングを行います。
- 土手の勾配は1：2.5～1：4.0程度とし、植栽樹木の根が堤防の定期断面を損なわれない程度の土盛り厚を確保します。

・舗装計画

- 景観イメージに従い、自然素材・自然系素材による舗装を行います。
- 錆系花崗岩板石（シヨットプラスト仕上げ）舗装
- 錆系花崗岩野面乱張り舗装
- 土系舗装
- 砂利敷き舗装
- 檜角材デッキ舗装



・植栽計画

- 玄関北側の法肩部には地域のシンボル樹でもあるヤマモモの株立ち大木を植栽します。
- 建築北側は眺望性能を確保するため、設備遮蔽常緑樹を最小限植栽します。
- 敷地東端部は、ロータリーを目立たなくする雑木の木立に、秋の点景となる柿を植栽します。
- 南庭は、開放的な芝生の広がりを活かすため、奥行きを感じることでできる樹木配植を行います。また、既存樹林のヤマザクラと呼応し、パークセンターからのピクチャシーンを意識し、花見が楽しめるさくらや木陰を提供するムクノキやエキの植栽を行います。

舗装材イメージ

板石舗装イメージ



乱張り舗装イメージ



砂利敷き舗装イメージ



土系舗装イメージ



デッキ舗装イメージ



植栽イメージ

芝生広場イメージ



ヤマモモ



ヤマザクラ



ウメ



カキ



ムクノキ



エキ

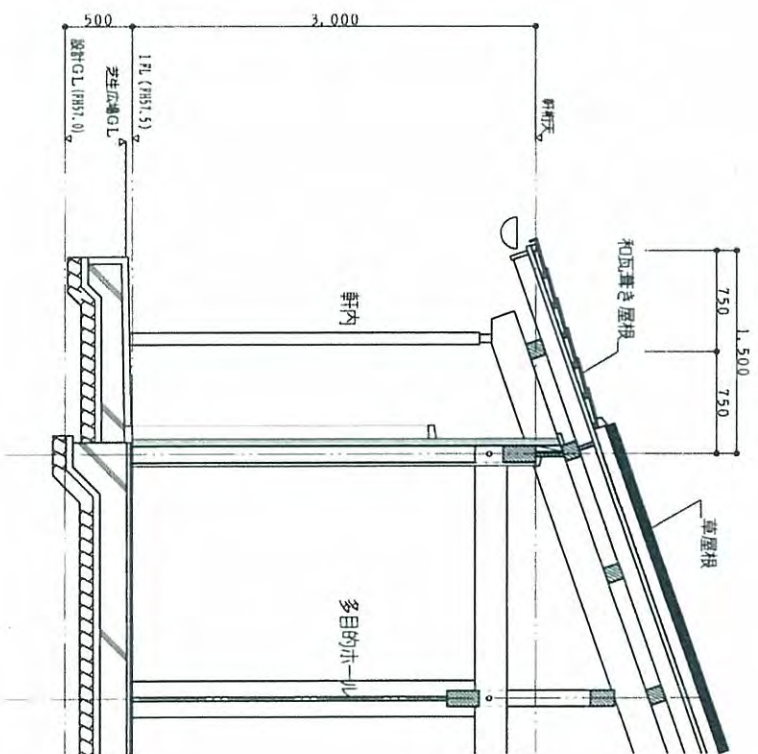
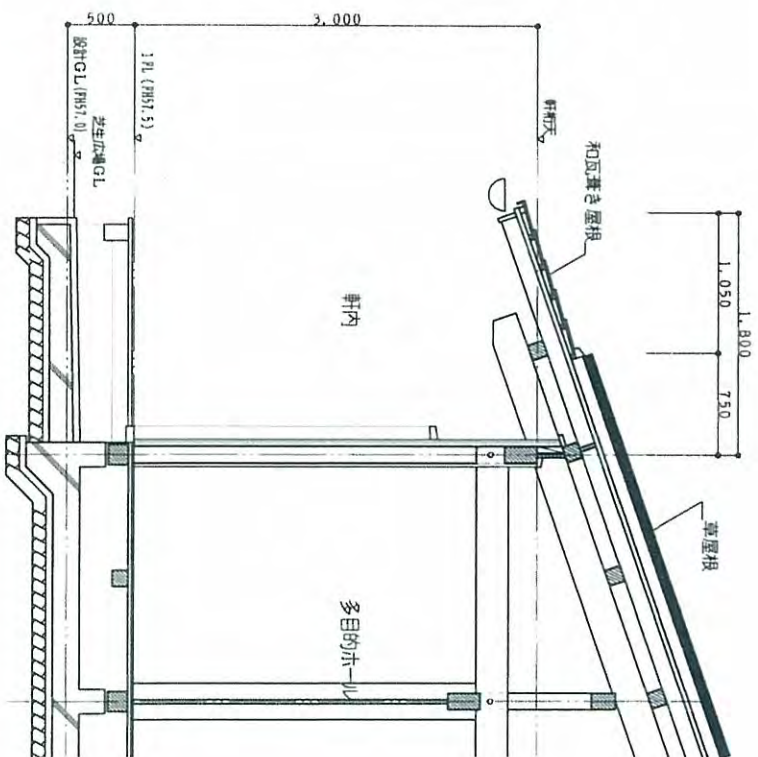


參考資料

■ 軒先の仕様・軒柱の有無の検討

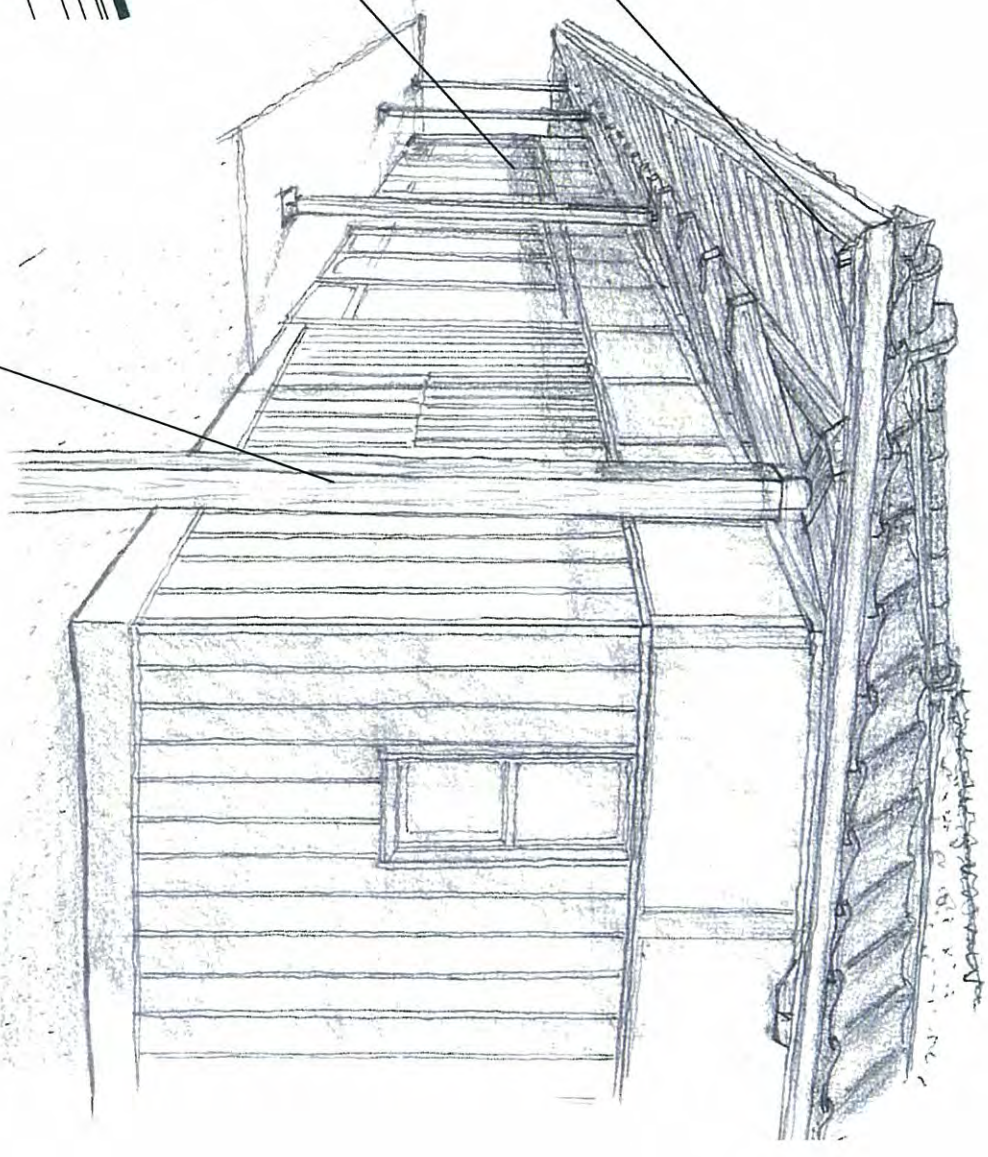
前回提案の1.8mの軒の出の景観的不安定感を解消するため、軒の出を1.5mとし、草屋根を0.75m後退させ、登り梁を受ける軒柱を主要部に設置することにより安定した南面軒先景観を形成します。

軒先の比較検討図



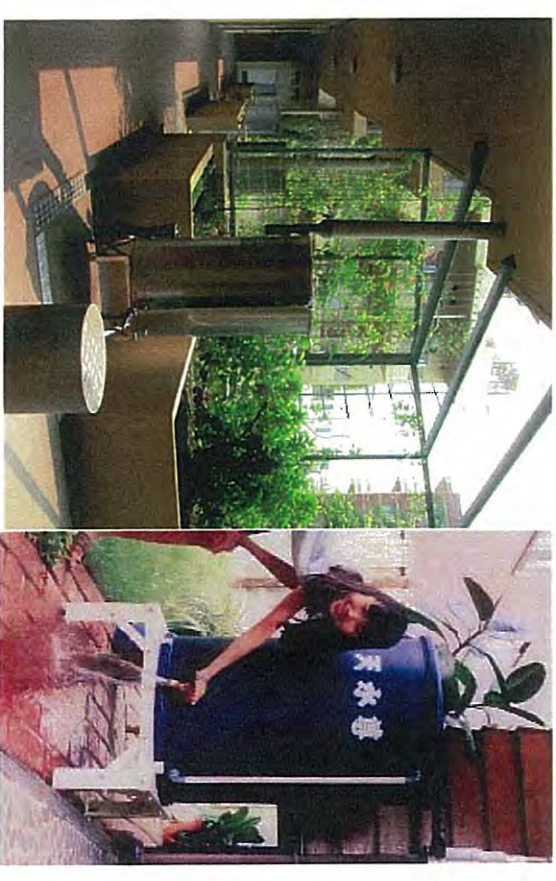
軒の出寸法を1500mmとし、軒先部分は全て黒いぶし瓦葺きとします。

軒の出寸法は夏の日差しを遮り、冬場の陽光を室内に取り入れる最適なバランスを考慮します。



登り梁の出桁を受ける形で両隣とその間にバランスを考慮し軒柱を設置します。

南側軒内空間のイメージスケッチ



雨水利用のイメージ写真

研修棟の屋根の雨水を軒先の樋で集め、地上に簡易な貯水槽を設置し雨水活用を行います。

前回運営会議提案のイメージ

- ・軒の出は内部と外部の繋がりを重視し、ゆとりのある軒内空間とするため
- 1. 目皿の軒の出幅を確保。屋根重量軽減と草屋根のメンテナンスを考慮して軒先から1.0mほどはいぶし和瓦葺きを検討しています。
- ・構造上の問題はありません。

検討案：軒の出を小さくし、景観配慮の柱を付ける

- ・考え方 - 軒内空間と外観のバランスを考慮し景観性を重視し4本の軒柱を設置します。
- 外観の安定性とコスト面を考慮し、軒の出寸法を1.5mとする。
- 草屋根範囲を小さくし軒先を全て瓦葺きとします。

■ 太陽光発電システムの比較検討

1 基本設計時点での計画は、研修棟屋根南面に、屋根材一体型のソーラーパネルを設置する計画となっています。施工面積約50㎡で、研修室の照明をまかなうことのできる程度の発電量を見込まれています。

2 実施設計の目標

省エネモデルとして相応しい発電量の確保と地域性景観を重視した機能選定をします。

⇒ 動力以外の日常利用をほばまかなえる発電量の確保します。

⇒ 発電効率の良い南向きの場所に設置します。

⇒ 黒色パネルを採用し、景観的に目立たない位置に設置します。

3 ソーラーパネル仕様の比較 (あくまでも各メーカーのカatalog上のスペック、価格表の単価による単純比較です。)

	設置面積	単位面積当たり発電量 (w/㎡)	パネル色	概算価格/kw	景観面	将来対応など	発電量
・ 屋根材一体型	約77㎡	約74.0w	黒色 ○	約135万円/kw ○	○	△	約5.7kw △
・ 据置き型	約77㎡	約167.5w	黒色 ○	約140万円/kw ○	△	○	約12.9kw ○

4 必要電力

施設の想定電力負荷(概算)				
単相(電灯[LED採用]・コンセント)	合計17kva	ピークセンター棟11.1kva	研修棟4.4kva	車庫棟1.5kva
三相(空調など)	合計17kva	ピークセンター棟13.0kva	研修棟4.0kva	
電灯[LED採用]のみの負荷	合計5.5kva	ピークセンター棟3.5kva	研修棟1.6kva	車庫棟0.4kva

5 設置場所・範囲

研修棟南側と車庫棟南側の範囲に設置することでピークセンターと研修棟1室の日常利用負荷をカバーします。



屋根材一体型(パネル面は黒色)

- 長所
- ・屋根材と一体感があり、景観的に優れている。
 - ・屋根仕上げと一体なのでコスト軽減要素になる。

- 短所
- ・発電効率が悪い。
 - ・製造メーカーが少なく、同等製品の比較に難あり。
 - ・将来的な改修に不利。



据置き型(パネル面は黒色)

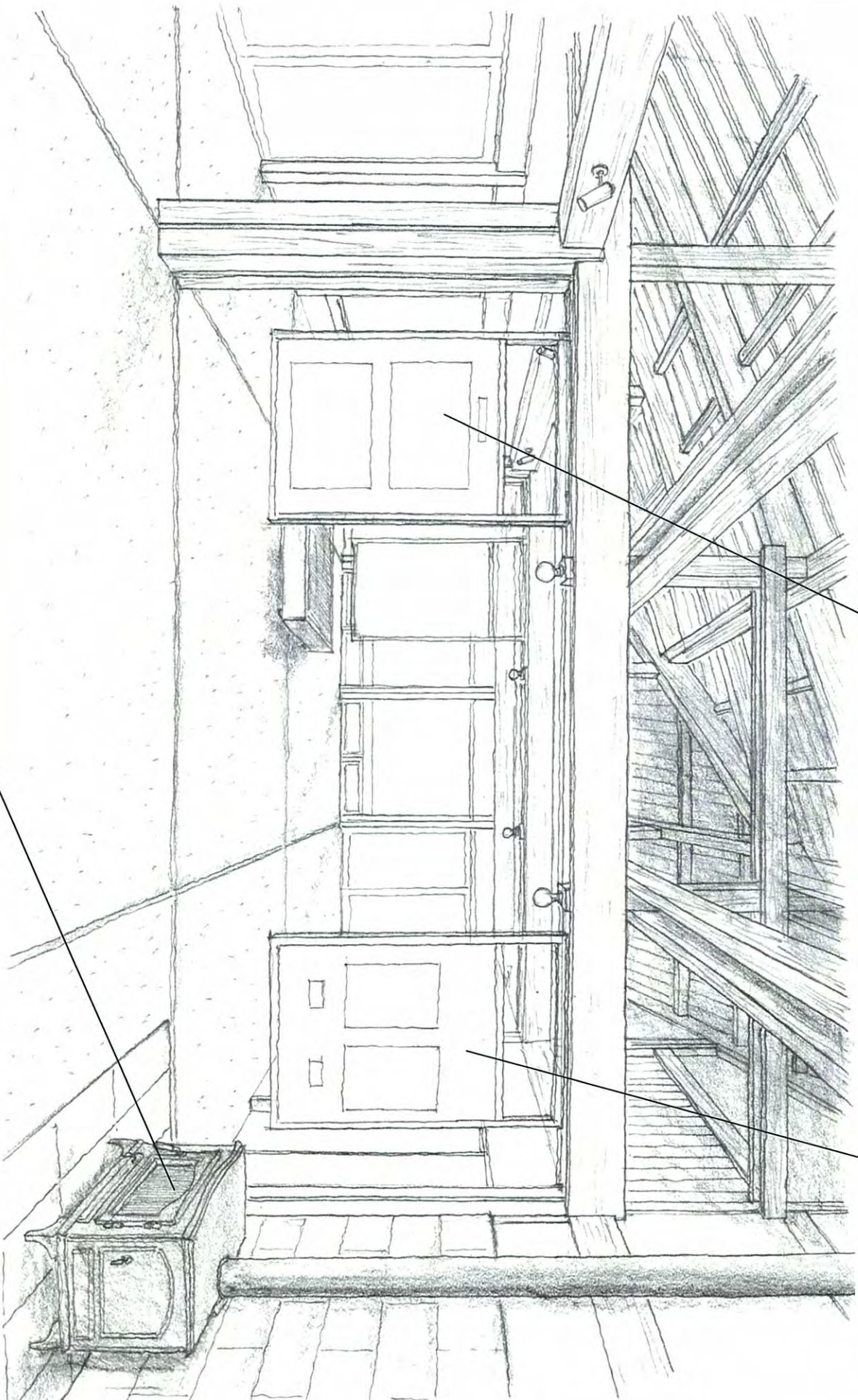
- 長所
- ・発電効率が高い。
 - ・同等製品を製造するメーカーが多く、適切なコスト・性能比較可能。
 - ・将来の改修・変更などに対応容易。
 - ・同量発電量なら設置面積が少なく済み、景観配慮につながる。

- 短所
- ・屋根材の上に据置きで設置するので、決して美しいとは言えない。

■ 着脱式可動展示パネル および 薪ストーブイメージ

ビジターホール・多目的ホールの構造梁を利用した着脱できる可動式の展示パネルを設置します。

合せ梁の間にピクチャーレールを埋め込み、散り下げ型の展示パネルを着脱できるようにする。パネルを取り外した時はレールは見えませんが。



薪ストーブ多目的ホールの中央部分に設置します。

展示パネル(案)と薪ストーブ設置のイメージスケッチ

展示パネルのサイズは大人がひとり〜ふたりで運べる程度のサイズとし、また展示される紙やボードのサイズに応じ決定します。A0判(1188×841)のパネルサイズが展示できる大きさを最大限とし、着脱、可動が行いやすいように合板にコルクシートを貼った軽質なパネルとします。

使用していない時の可動展示パネルの収納は研修室棟の倉庫やビジターホール・多目的ホールの隅部に整理できるようにします。



展示ボード
W900×H1550

展示ボード
W600×H1600

参考写真

上記写真のように市販されている一般的な移動式掲示板においても、そのサイズはW600mmやW900mmといったサイズが多く、これは可動物として移動や収納に適したサイズであり、展示されるであろう紙面やボードの規格サイズとの兼ね合いを考慮してのものであります。今回、製作を検討するオリジナル着脱式可動展示パネルについても、こうした規格サイズに順応し、木質空間に呼応する設えを創作するが意図です。

こうした可動式の製作什器は当初から大量に製作する必要は無く、必要に応じて、年次ごとに増やすなど運営内容に合わせて製作でき無理無駄がかかりません。

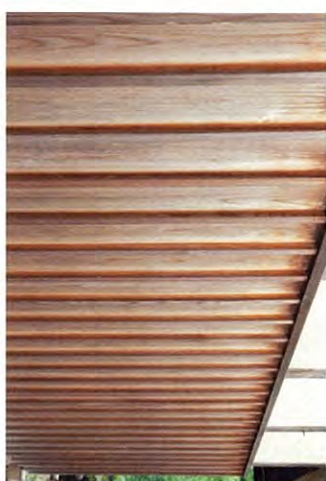


薪ストーブイメージ写真

外部仕上表 (案)

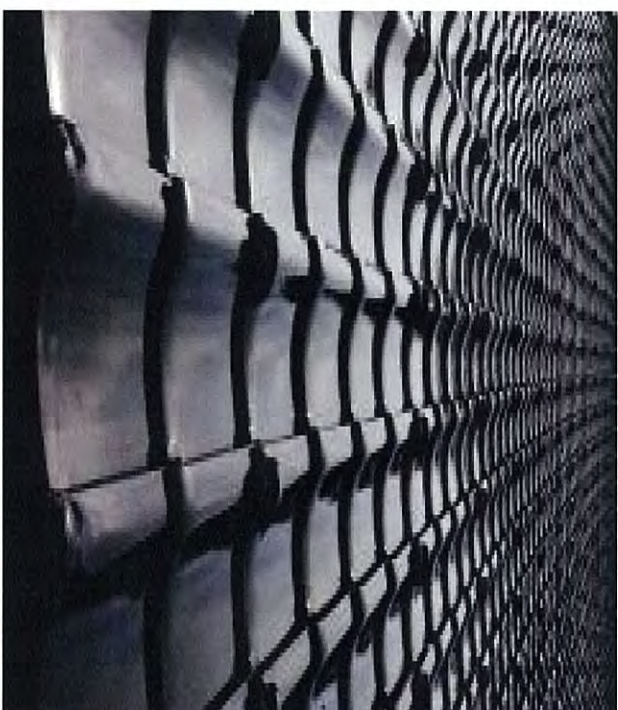
●パークセンター

- ・外 壁 : 杉板張り 木材保護塗料塗り 一部 漆喰塗り ※腰の杉板張りの上部に漆喰を設えた木造建築の一般的な設えとします。府内産の木材を使用します。



杉板張りと漆喰のイメージ

- ・屋 根 : 草屋根 軒先 越屋根 3.5寸 (改良アスファルト防水、耐根シートの上、軽量土壌) ※草屋根は芝貼りです。 黒いぶし瓦葺き (銀黒瓦) 黒いぶし瓦葺き (銀黒瓦) ※瓦は近県で生産されたものを使用します。 日本建築の屋根に多く見られるいぶし瓦は、渋い銀黒色で古くから使われ対向性が高く、経年変化により風土に馴染みます。



瓦のイメージ

- ・軒 樋 : 屋根軒先の4周に設置
- ・軒 裏 : 化粧杉野地板 ※屋根の下地板を露わにした仕上げで、一般的な和風の仕上げです。木材の節が見える材を使用します。



化粧野地板のイメージ

- ・エントランス庇 : 黒いぶし瓦葺き (銀黒瓦)
- ・エントランス床 : 豆砂利洗出し仕上げ ※ノンスリップ性が良く、汚れが目立ちにくいのが特徴で、農家の風情にも良く合います。
- ・スロープ床 : 豆砂利洗出し仕上げ



床 豆砂利洗出し仕上げのイメージ



豆砂利の種石の大きさのイメージ

- ・ 建 具 : 木製建具、アルミ製建具
- ・ 縁 側 : 土間風モルタル仕上げ
- ・ 展望デッキ : 桧角材張り 防腐処理の上木材保護塗料塗り

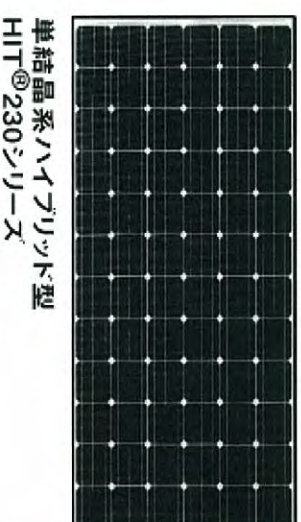
※9 cm角程度の桧を床材に使用する事で15年以上の耐久性があります。府内産木材を使用します。



桧材 角材のイメージ

●研修棟

- ・ 外 壁 : 杉板張り 木材保護塗料塗り 一部 漆喰塗り
- ・ 屋 根 : 金属鋼板葺き (一部 ソーラーパネル[黒色パネル]を設置)



単結晶系ハイブリッド型
HIT®230シリウス



金属鋼板 色のイメージ

ソーラーパネル屋根一体型のイメージ

- ・ 軒 樋 : 屋根軒先に設置
- ・ 軒 裏 : 化粧杉野地板
- ・ 回廊床 : 豆砂利洗出し仕上げ
- ・ スロープ床 : 豆砂利洗出し仕上げ
- ・ 建 具 : 木製建具、アルミ製建具
- ・ テラス : 桧板張り 防腐処理の上木材保護塗料塗り

●車庫棟

- ・外壁 : 杉板張り 木材保護塗料塗り 又は焼杉張り
- ・屋根 : 金属鋼板葺き (一部 ソーラーパネル「黒色パネル」を設置)
- ・軒樋 : 屋根軒先に設置
- ・軒裏 : 杉野地板

内部仕上表 (案)

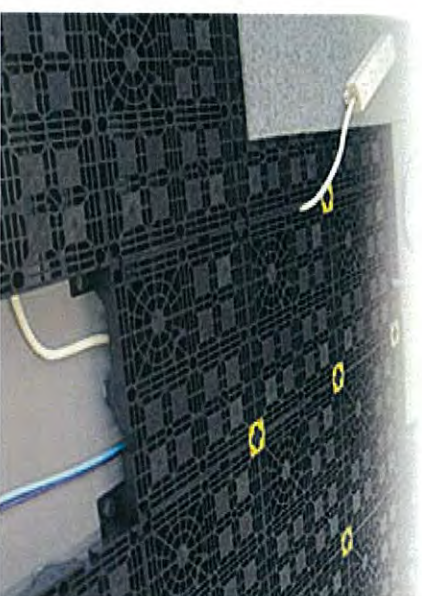
室名	床	巾木	壁	天井	天井高さ	備考
●パークセンター ・ビジターホール ・事務室 ・ポランテイルーム	土間風モルタル OAフロアー (タイルカーペット) OAフロアー	木製 木製	杉板張り 及び漆喰仕上 杉板張り	杉化粧野地板 杉板張り	直天井 2400	可動式置ベンチ、展示パネル、 ストーブ類、AED (備品) 受付カウンター、流し台類、フラインドBOX
・多目的室 ・書庫 ・男女更衣室 ・前室 ・男女多目的便所	(タイルカーペット) タイルカーペット 松緑甲板張り 松緑甲板張り 松緑甲板張り 50角モザイクタイル	木製 木製 木製 木製 木製	杉板張り 珪藻土クロス 珪藻土クロス 珪藻土クロス 和紙クロス 和紙クロス 50角モザイクタイル	杉板張り 杉板張り 化粧石膏ボード 化粧石膏ボード 和紙クロス 和紙クロス 杉板張り	2400 2400 2400 2400 2400 2400 2400	受付カウンター 収納、フラインドBOX 収納階段 手洗いカウンター、手すり等、鏡、トイレブース ベビーシート (多目的便所)
●研修棟 ・研修室A・B ・書庫 ・倉庫 ・ポランテイル更衣室	土間風モルタル リノリウムシート リノリウムシート リノリウムシート	木製 木製 木製 木製	杉板張り 珪藻土クロス 珪藻土クロス 珪藻土クロス	杉化粧野地板 化粧石膏ボード 化粧石膏ボード 和紙ボード	直天井 2400 2400 2400	可動式間仕切り壁、流し台類 シャワーブース、
●車庫棟 ・車庫 ・倉庫	コンクリート直押え コンクリート直押え	モルタル モルタル	杉板張り 杉板張り	野地板表し 野地板表し	直天井 直天井	車止め、大型引き戸

●内部仕上げのイメージ



床材：土間風モルタルのイメージ

農家の土間たたきのイメージをさせる素朴な仕上げで、汚れも目立ちにくく、ノンスリッパ効果も高い仕上げです。床面には目地をとる仕様になります。



床材：OAフロアのイメージ

OAフロアーはコンセントや配線が自由に取り出せ、机等のレイアウトが自由に、スツキリと納める事が出来、事務室に適した床下地材です。



床材：タイルカーペット (500角) のイメージ

タイルカーペットは 50 cm角の標準品を使用し、OAフロアーと併用ができる仕上げ材です。部分的な張り替えも簡単に対応ができます。



可動式畳ベンチのイメージ

休憩のベンチとして、集合させて複数席として、又、収納として利用が出来ます。可動式なのでフレキシブルに対応ができます。



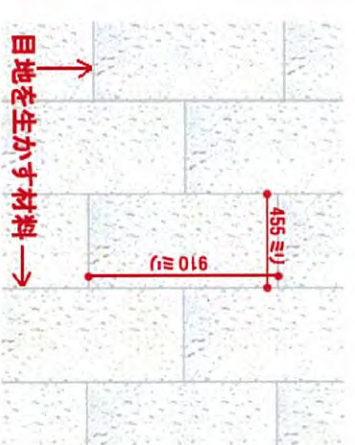
壁材：珪藻土クロスイメージ

多孔質な珪藻土の特性により、「消臭性」「吸放湿性」「通気性」を発揮します。機能性を兼ね備えた壁材です。



天井：化粧石膏ボードのイメージ

ローコストで化粧仕上げが満されて、使い勝手が自在です。倉庫や車庫など仕上げ材として意匠性の要らない天井に使用を考えています。



床材：50角モザイクタイルのイメージ

便所の床材は、水洗いの出来る床材として、吸水性の低い磁器質とし、又ノンスリッパ性の高い5cm角のタイルを考えています。



床材：リノリウム (シート) のイメージ

適度な弾力性があり、耐水性、抗菌性能に優れているため、公共施設の床仕上げ材として使われます。天然素材で抗菌効果を持ち、焼却しても有害物質が排出されない環境に優しい素材です。



床材：桧縁甲板のイメージ

府内産では杉、桧が流通しており、より耐久性のある桧材の使用を考えています。

